

令和7年度 瓜破中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

<div>【成果と課題】</div> <div>○全国学力・学習状況調査結果</div> <div><国語> 全国と比較して、平均正答率において、「話すこと・聞くこと」の領域は-3.2%、「書くこと」の領域は-6.1%、「読むこと」の領域は-4.2%であった。問題形式では「記述式」が-7.0%であった。評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」いずれにおいても、書くこと、記述することに課題がある。</div> <div><数学> 全国と比較して、平均正答率において、「関数」の領域は-7.2%、「データの活用」の領域は-15.3%であった。評価の観点「思考・判断・表現」が-8.4%であり、数学の知識を活かして課題を解決するような問題において課題が見られる。</div> <div><理科> 全国と比較して、IRTバンド3の割合が-12.1%である一方、IRTバンド2の割合+11.1%であった。IRTバンド2の層に学力を定着させる取組が課題である。</div> <div>○中学生チャレンジテスト(3年)</div> <div><国語> 大阪府と比較して、平均正答率において、「話すこと・聞くこと」の領域は-1.1%、「書くこと」の領域は-0.7%、「読むこと」の領域は-1.0%であった。</div> <div><社会> 大阪府と比較して、平均正答率において、「地理」の領域は-3.3%、「歴史」の領域は-1.4%、評価別では「知識・技能」の領域は-3.5%であった。</div> <div><数学> 大阪府と比較して、平均正答率において、「図形」の領域は-1.2%、「関数」の領域は-1.2%であった。評価別では「知識・技能」の領域は-2.8%であった。</div> <div><理科> 大阪府と比較して、平均正答率において、「エネルギー」の領域は+0.2%、「生命」の領域は-1.3%であった。評価別では「思考・判断・表現」の領域は-12.5%であった。</div> <div><英語> 大阪府と比較して、平均正答率において、「聞くこと」の領域は-1.6%、「読むこと」の領域は-1.6%、「書くこと」の領域は-3.5%であった。評価別では「知識・技能」の領域は-4.1%であった。</div> <div>○G－TEC(3年)</div> <div>「読むこと」「聞くこと」は大阪市平均に近づいているが、「書くこと」が対市平均-33.3pt、「話すこと」が-12.6ptであることから、アウトプットに関わる領域に課題がある。</div> <div>○中学生チャレンジテスト・チャレンジテストplus(1年)</div> <div><国語> 大阪府と比較して、平均正答率において、「知識・技能」の領域は-3.6%、「思考・判断・表現」の領域は-3.2%であった。</div> <div><社会> 大阪府と比較して、平均正答率において、「地理」の領域は-9.8%、「歴史」の領域は-8.8%、評価別では「知識・技能」の領域は-7.6%であった。</div> <div><数学> 大阪府と比較して、平均正答率において、「数と式」の領域は-7.8%、評価別では「知識・技能」の領域は-11.5%であった。</div> <div><理科> 大阪府と比較して、平均正答率において、「基礎」の領域は-11.4%、「生命」の領域は-14.9%であった。評価別では「思考・判断・表現」の領域は-2.0%であった。</div> <div><英語> 大阪府と比較して、平均正答率において、「読むこと」の領域は-3.3%、評価別では「思考・判断・表現」の領域は-4.3%であった。</div> <div>○中学生チャレンジテスト(2年)</div> <div><国語> 大阪府と比較して、平均正答率において、「知識・技能」の領域は-3.6%、「思考・判断・表現」の領域は-6.8%であった。</div> <div><社会> 大阪府と比較して、平均正答率において、「知識・技能」の領域は-5.7%、「選択式」の領域は-4.6%であった。</div> <div><数学> 大阪府と比較して、平均正答率において、「数と式」の領域は-5.7%、評価別では「知識・技能」の領域は-8.5%であった。</div> <div><理科> 大阪府と比較して、平均正答率において、「粒子」の領域は-4.8%、評価別では「思考・判断・表現」の領域は-4.8%であった。</div> <div><英語> 大阪府と比較して、平均正答率において、「書くこと」の領域は-6.0%、評価別では「知識・技能」の領域は-7.9%であった。</div> <div>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査</div> <div>男女とも、大阪市および全国平均を下回っている。</div> <div>【今後に向けて】</div> <div>○全国学力・学習状況調査結果</div> <div><国語> 学習における記述の場面を増やし、記述に対する苦手意識を解消させる。</div> <div><数学> 学習で培った知識・技能を活かして、諸課題の解決方法について考える機会を増加させ、データ活用能力を高める。</div> <div><理科> 中低位層～低位層の学力の着実な定着に向け、基礎の反復や理科に興味を持たせる取組を重点的に行う。</div> <div>○中学生チャレンジテスト(3年)</div> <div>いずれの教科においても、評価の観点「知識・技能」について、大阪府平均よりも大きく下回っている傾向にある。「知識・技能」については、各教科のいわゆる「基礎基本事項」が多く含まれていることから、学校や家庭における反復練習等、確実に定着させる取組に課題がある。この点にしっかり時間をとり、基礎基本事項の確実な定着に注力していく。</div> <div>○G－TEC(3年)</div> <div>「読むこと」「聞くこと」についてはデジタル教材等を用い、学習の質を保ちながら費やす時間の合理化を図り、「書くこと」「話すこと」に充てる時間を確保し、その機会を増やす。その際C－NETを活用し、実用的な英語活用能力を高めていく。</div> <div>○中学生チャレンジテスト・チャレンジテストplus(1年)</div> <div>各教科総じて、「基本」「知識・技能」等、基礎・基本に関わる領域において大阪府平均より大きく下回っている。家庭学習の時間も含め、学習時間の確保についての工夫を図り、基礎基本事項の反復をさせる。</div> <div>○中学生チャレンジテスト(2年)</div> <div>昨年度と比較し、基礎基本にかかる力が定着している。学習習慣の改善が顕著な生徒も多く、主体的かつ対話的な学びをすすめていく。</div> <div>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査</div> <div>○運動を好きだと答える生徒は増加しているため、運動に親しみを持たせ、挑戦させていく。</div>
